

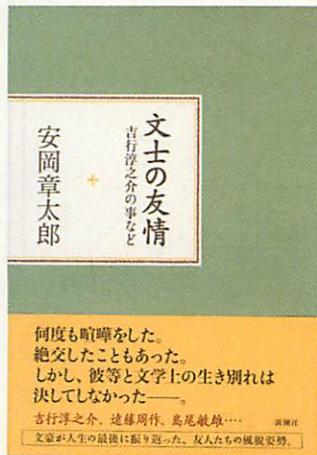
BOOK

本

街の本屋さんが「今月推したい1冊」をご紹介します。

はわが人生の「師」なり

— 無駄のない文体で書かれた切れ味のいいエッセイ —



文士の友情 吉行淳之介の事など

著者：安岡 章太郎
出版社：新潮社
定価：1,900円＋税

今年の1月に逝去した文豪、安岡章太郎が親交のあった文士たちのことを振り返ったエッセイ。安岡章太郎と同じ時期にデビューし「第三の新人」と目された吉行淳之介や遠藤周作について書かれています。

吉行淳之介のことを語っているときは、まるで吉行淳之介の文体が蘇るような語り口で、遠藤周作のことを語っているときは、遠藤周作の人柄がにじみ出るように書かれ、本人の作風そのものを彷彿とさせます。

文士たちの死を見つめてきた彼だから語れることが、無駄のない文体で書かれ、この時代の文士が好きなお方にはたまらない1冊です。その時代を知らなくても、豊かな時代であったと感じ取ることができます。

ロシア文学者である娘、安岡治子の「あとがきに代えて」では、家族でしか知りえない娘を思う父親の姿にホロリとさせられます。

今月の推薦者



MARUZEN & ジュンク堂書店 札幌店
菊地 貴子さん

今こんな本が売られています

MARUZEN & ジュンク堂書店 札幌店
売上ランキング
(期間:8月30日～9月5日)



文芸書 売上ベスト5

1位	ホテルローヤル/桜木 紫乃(集英社)
2位	苦手図鑑/北大路 公子(角川書店)
3位	わたしのウチには、なんにもない。/ゆるりまい(角川書店)
4位	ロスジェネの逆襲/池井戸 潤(ダイヤモンド社)
5位	鎮魂 さらば、愛しの山口組/盛力 健児(宝島社)

CINEMA



ランナウェイ/逃亡者

10月5日(土)から公開
ユナイテッド・シネマ札幌

偽りの名前。手に入れた別の人生。30年間、守り抜いた“嘘”

1969年、“ウェザーマン”と名乗る過激派グループが、ベトナム戦争反対を訴え連続爆破事件を起こす。しかし事件後、グループは忽然と姿を消してしまう。それから30年。突如として元メンバーの1人が逮捕され、再び注目を浴びることとなる。新聞記者のベンは、その事件を追ううちにある人物に辿り着く。それは、アメリカの模範的な市民、弁護士のカムだった。逃亡の裏に隠された驚愕の真実が今、暴かれる!!

チケットプレゼント

ご招待券を4名様にプレゼント。
32頁のアンケートにご記入の上、ご応募ください。